

アカハネバッタ

Celes akitanus (Shiraki)
バッタ目・バッタ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：要注目

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠA類

選定理由

文献によると、過去には県内に広く分布していたと考えられるが、50年以上記録がない。日本国内でも、1986年に新潟県で確認されて以来、記録がなかったが、2015年に長野県、山形県で再発見された。

種の特徴

体長はオス25～27mm、メス35～40mm。体は褐色で、後翅は基部が赤い。卵越冬で年1化。7～10月に成虫の採集例がある。明るい林道や松林の下草に生息するが、詳しい生態は不明。

分布

本州（東北地方～中部地方）に点々と分布。県内では旧松岡町での戦前の記録、1950年頃に大野市での記録がある。文献によると、戦前は県内に広く分布していたとされる。

絶滅した要因

少なくとも海岸のマツ林においては、管理放棄が主な原因とされているが、高原の草地における減少要因は明らかでない。

参考文献 福井県博物館（1938）、福井県自然環境保全調査研究会（1985）、福井県自然保護課（2002）、環境省（2015）、村井・伊藤（2011）、永幡（2015）、日本直翅類学会（2006）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
										●							●

ゴマシジミ（本州中部亜種）

Maculinea teleius kazamoto (H. Druce)
チョウ目・シジミチョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：県域絶滅

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠA類

選定理由

各地で減少が著しく、近年記録があるのは山梨県、長野県であり、その他では絶滅がそれに近い状況にある。本県においても、前回のレッドデータブックで絶滅とされ、その後も再確認の情報がない。

種の特徴

小型。翅表は外縁の黒帯を除き青色で、黒斑が並ぶ。年1回、7～8月頃に発生。食草はワレモコウで、幼虫は蕾を摂食後、クシケアリの一種の巣内に運ばれ、アリの卵・幼虫を食べて育つ。草刈りによって人為的に維持される半自然のススキ草原に生息する。

分布

本州に分布。県内ではあわら市東山で1970年に採集記録があるが、それ以降は確認されていない。東山の採集地点は、北陸自動車道の建設で消失した。

絶滅した要因

草地の開発による消失や、管理放棄による環境変化。県域では、生息の可能性はないと考えられる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、環境省（2015）、日本チョウ類保全協会（2012）、下野谷（1976）、白水（2006）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
													●				

ヒメヒカゲ（本州西部亜種）

Coenonympha oedippus arothius Okada & Torii
チョウ目・ジャノメチョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：県域絶滅

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

前回のレッドデータブックで絶滅とされ、その後も再確認の情報がない。

種の特徴

小型。翅表は淡黒褐色。裏面は茶褐色～淡褐色で、黄色の縁取りのはっきりした眼状紋がある。成虫は年1回、6～7月頃に発生。食草はショウジョウスゲ等。小規模な貧栄養湿地や、山地草原、放牧地、採草地等に生息する。

分布

本州中部～西部に分布。県内では敦賀市花城での採集記録がある。また、福井市自然史博物館には小浜市鬼ヶ谷で採集したとされる標本が所蔵されている。

絶滅した要因

各種開発、草地の管理放棄、圃場整備等が生息を脅かす要因として指摘されている。県域では、生息の可能性はないと考えられる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、環境省（2015）、日本チョウ類保全協会（2012）、白水（2006）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					●	●											